



# 命の大切さを学ぶ 授業について

複雑化する社会の中で、子どもたちを取り巻く状況はますます厳しくなっています。いじめや暴力が、自殺や犯罪につながることも珍しくありません。

これからの社会を担う子どもたちが、被害者にも加害者にもならないために、自分の命も、他人の命も大切にすることを学んでもらうことが「命の大切さを学ぶ授業」の目的です。

犯罪被害者ご遺族の講演、手記の朗読を通し、かけがえのない命について、友達や家族と真剣に考える機会をお届けします。

【主催】 兵庫県警察 ・ 公益社団法人ひょうご被害者支援センター

【対象】 兵庫県内小学校高学年 ・ 中学 ・ 高校 ・ 大学生 ・ 保護者 ・ その他地域団体等

【内容】 ①② いずれかをお選びください。

① 犯罪被害者ご遺族の講演(50～60分)

理不尽な犯罪で突然に大切なご家族の命を奪われた犯罪被害者ご遺族から、事件当時から現在に至るまでの思いを話していただきます。

② ひょうご被害者支援センター相談員による手記朗読とデジタル紙芝居 (約50分)

デジタル紙芝居は、犯罪被害者ご遺族の手記朗読を聞いた2人の中学生が登場し会話形式で進んでいく紙芝居です。

2人が『命の大切さ』について語り合いながら考えを深めていき、そして加害者にも被害者にもならないため踏みとどまる『クールダウン』について学んでいきます。

①② いずれも最初に兵庫県警察より被害者支援についての話(約5分)があります。

## ☆ひょうご被害者支援センターとは☆

兵庫県公安委員会から犯罪被害者等早期援助団体の指定を受けている県内唯一の民間支援団体です。兵庫県の委託を受け、平成29年から性暴力被害のワンストップ支援センター「ひょうご性被害ケアセンターよりそい」を、令和5年から「兵庫県犯罪被害者等総合相談窓口」を開設し、電話相談や付添などの支援活動を行っています。



犯罪被害者遺族による講演



相談員によるデジタル紙芝居

## 生徒の感想

- ・お話を聞く中で人の命とはこんなにはかないものなのか、と思った。
- ・この世の中には、生きたくても生きられなかった人がいることを知った。すぐに死にたいと思うのは生きられなかった人に失礼な事だと思った。
- ・今日の話聞いて、一人で悩むのではなく誰かに話してみようと思った。
- ・自分の発言が言葉のナイフにならないように、しっかりと自分の心の中で考えようと思った。そう思わせてくれた講師の方に感謝している。
- ・一人でも多くの方が命について関心を持つことが大切だと思う。私も他人事と思わず命について考えたい。
- ・ご遺族の「一生遺族として生きる」という言葉が心に突き刺さった。
- ・一つしかない命、自分の命も他人の命も大切にしていきたい。

## 神戸連続児童殺傷事件被害者ご遺族の手記

最愛の人を失うということ、それは残された家族に大きな心の傷を残します。そして、それが犯罪という、突然で理不尽な出来事によって失われた場合には、残された家族の心の傷は、さらに深く、そして回復困難なものになってしまいます。

心に深く大きな傷を刻み付けられた遺族は、精神的にも、肉体的にもどん底の状態に置かれながらも、そこからはい上ろうともがき苦しみ、必死に血の滲むような努力をしています。もがき苦しむ犯罪被害者遺族の心の中には、理不尽に命を奪われた家族への思いが尽きることはありません。そして、亡くなった人の「おもかげ」を、一生追いつけていきます。

犯罪被害者ご遺族手記集「おもかげ」より

## お問い合わせ・お申込み先

兵庫県警察本部 被害者支援室

☎ 0120-338-274



兵庫県公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体  
公益社団法人 ひょうご被害者支援センター

☎ 078-599-5268 FAX:078-362-7787

e-mail:koho@supporthyogo.org

<https://supporthyogo.org/>

